

趣味のひとつ オールディーズ

第4巻 ポップグループあれこれ

前回はアメリカのフォークソングを特集しましたが、今回はオールディーズの色々なポップグループを思い出しましょう。分かりやすく、女性と男性グループに分類しました。ヒットチャート・ランキングは全米ヒットチャート「ビルボード誌」（以下B誌）を参考にしています。

◆女性・混声グループ

・62年にクリスタルズが「ヒーズ・ア・レベル」をB誌第1位に、63年にはロネッツが「ビー・マイ・ベイビー」を2位にしましたが、何と言っても翌64年に「愛はどこへ行ったの」で1位を記録したダイアナ・ロス&シュープリームスを忘れてはなりません。続いて発売した5曲を連続して1位にする前代未聞の記録を作りました。その後も数々のヒット曲を出し、69年の「またいつの日にか」まで、何と12曲を1位にしています。リードヴォーカルのダイアナ・ロス（1944年生）はソロ歌手としても、「マホガニーのテーマ」など6曲を1位にしており、一人で18曲を1位にするというビートルズの20曲に次ぐ記録（エルヴィス・プレスリーとタイ記録）を持っています。

・65年にはトイズが「ラバース・コンチェルト」（2位）をヒットさせました。日本ではサラ・ヴォーン（1924年生）が歌う曲の方が有名になりましたが、私はリードヴォーカルのバーバラ・ハリス（1945年生）が澄んだ声で歌うトイズ盤の方が好きです。このように1960年代の前半は黒人女性グループが大活躍しました。

・72年に「木枯らしの少女」をヒットさせたビョルン&ベニーは、それぞれの奥さんをメンバーに加え、4人の名前の頭文字を取って ABBA というグループを作りました。77年に「ダンシング・クイーン」が1位を記録し、他にも「チキチータ」「フェルナンド」などのヒット曲がありました。アグネッタとアンニ・フリッドの女性たちの衣装は奇抜で、日本のピンクレディの衣装にも影響を与え、そっくりな衣装や「SOS」と言う同じタイトルの曲（メロディは違う）まであります。

◆男性グループ

・57年にエヴァリー・ブラザーズが「起きろよスージー」をB誌第1位にし、58年に「夢を見るだけ」を、60年には「キャシーズ・クラウン」を1位にし、

そのメロディとハーモニーの美しさはビートルズやビーチボーイズにも影響を与えています。

・63年にタイムズ (The Tymes) が「渚の誓い So Much in Love」(1位) をヒットさせます。軽快なテンポと美しいハーモニーで今も根強い人気を持った名曲です。

・64年にビーチ・ボーイズが「アイ・ゲット・アラウンド」で1位を記録します。サーフィン・サウンドの代表選手で「サーフィンUSA」「リトル・ホンダ」「ヘルプ・ミー・ロンダ」「グッド・バイブレーション」など数々のヒット曲を生みビートルズに対抗できるアメリカを代表するグループになりました。同年テンプテーションズが「マイ・ガール」を1位にし、「ホーム・アローン」のマコーレー・カルキン(1980年生)が出演した1991年の同名の映画の主題歌に使われました。この年はライチャス・ブラザースが「ふられた気持」をB誌第1位にし、65年に「アンチェインド・メロディ」(4位)、66年に「ソウル・アンド・インスピレーション」を1位にしました。低音担当のビル・メドレー(1940年生)と高音担当のボビー・ハットフィールド(1940年生～2003年没)のデュエットは「白人のソウル＝ブルー・アイド・ソウル」と呼ばれました。

・65年にゲイリー・ルイス (1946年生) & プレイボーイズが「恋のダイヤモンドリング」(1位) でデビューします。ゲイリーはコメディアン、ジェリー・ルイスの息子で「涙のクラウン」(4位)「グリーン・グラス」(8位) など多くのヒット曲を出しました。同年にはイギリスのハーマンズ・ハーミッツが「ミセス・ブラウンのお嬢さん」(1位)「ヘンリー8世君」(1位)「見つめあう恋」(4位)などをヒットさせました。リード・ヴォーカルは、アイドル的人気のピーター・ヌーン(1947年生)でした。

・66年にアソシエーションが、「チェリッシュ」(1位)「ウィンディ」(1位)「ネバー・マイ・ラブ」(2位)を出しました。その柔らかなサウンドから、ソフト・ロックと呼ばれます。同年モンキーズが「恋の終列車」(1位)「デイドリーム・ビリーバー」(1位)「すてきなバレリ」(3位)などのヒット曲を出し、テレビ番組も放映され一時代を築きました。メンバーのデイビー・ジョーンズ(1945年生)は2012年に66歳で惜しくもこの世を去りました。

・67年にビージェーズが「マサチューセッツ」「ホリデイ」「ワールド」を続けてヒットさせ翌年には「ワーズ」「ジョーク」をヒットさせました。その後も「若葉のころ」「メロディ・フェア」のヒット曲がありましたが、70年代後半になるとまるでスタイリスティックスのような、ファルセット・ヴォイスを使った軽いディスコ調の曲が増え、これまでのしつとりと歌い上げる曲調が好きだったファンをがっかりさせました。私も一首詠みましょう。“そりゃ、ないぜ イメージこわすな ビージェーズ 若葉のころこそ あらまほしけれ”。

◆インストゥルメンタル・グループ

・まずはエレキブームを作ったベンチャーズです。リードギターのノーキー・エドワーズ（1935 年生）は大男で、あの太い指で良く早弾きができるものだと感心します。「ダイヤモンド・ヘッド」「十番街の殺人」等のヒット曲とともに日本をイメージした曲「二人の銀座」（和泉雅子昭和 22 年生、山内賢昭和 18 年～平成 23 年没）「北国の青い空」（奥村チヨ昭和 22 年生）「京都の恋」「京都慕情」（渚ゆう子昭和 20 年生）「雨の御堂筋」（欧陽菲菲昭和 24 年生）も提供してくれました。

・宇宙サウンドと言われたのがスプートニクスです。当時のソビエト連邦が打ち上げた人口衛星の名前をグループ名にしていますが、スウェーデン出身です。「霧のカレリア」「空の終列車」「モスクワの灯」などロシア調の曲が多く、澄んだギターの音色が心に沁みました。

いかがでしたか。そう言えば、そんなグループもあったなあ…、と懐かしんでいただけたでしょうか。これ以外にも紹介したいポップグループがありますが、紙面の関係でこれくらいにしておきます。次回は懐かしいソロ歌手を特集します。

<シスターズ>

レノンと言えばジョン・レノンですが、レノン・シスターズもお聞きください。ダイアン、ペギー、ケイシー、ジャネットの四人姉妹の優しい歌声とハーモニーが特徴です。「イチゴの片思い」は日本では、中尾ミエ、アメリカではナンシー・シナトラの歌で有名ですが、元はレノン・シスターズが歌ってヒットさせました。心癒される歌声とはこのことです。姉妹グループでは「忘れたいのに」を歌ったパリス・シスターズがいます。この曲は、モコ（高橋基子）・ビーバー（川口まさみ 1948 年生）・オリーブ（シリア・ポール 1947 年生）の三人組がカバーして深夜放送族の若者（今や団塊世代）に受けました。元気いっぱいのーランズも姉妹グループでした。「ダンシング・シスター」「恋のハッピー・デート」を日本でヒットさせました。